

〈帝塚山学院大学 履歴書・教育研究業績書記入要領〉

●履歴書・教育研究業績書の日付は西暦で統一して作成してください。

●作成が終わったら、個人においても、必ずデータを保存しておいてください。

(様式1)

履 歴 書				
フリガナ 氏名	※旧姓や通称名を使用する場合はご相談ください。			男・女
本籍地又は国籍	日本国籍の場合は都道府県名、 外国籍の場合は国名。	生年月日 (年齢)	19XX年〇〇月〇〇日 (満 才) 記入日現在の満年齢	※写真を添付 4cm×3cm、 正面、無帽、無背景 とし、裏面に氏名を 記入して添付。(カ ラー、モノクロは問 わず。画像データで の提出も可。)
フリガナ 現住所	〒 ー			
電話番号		携帯電話		
E-mail	@			
学 歴				
年月	事 項			
年 月	<p>(1) 大学もしくは高等専門学校またはこれらと同等以上と認められる学歴すべてを記入。 なお、記入にあたっては、卒業証書または修了証書等を確認し、大学の学部、学科、課程、専攻、 コース並びに大学院の研究科、課程(修士課程、博士課程)、専攻、コース及び学位の種類につい て、正確に記入すること。(大学の学部、学科の入学から記入。)</p> <p>(2) 修士課程、博士課程の表記は、次の例を参照のこと。 なお、前期博士課程、後期博士課程の名称を用いている場合には、その名称に従って記入。 〔例〕 19XX年00月 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇学専攻(修士課程)入学 20XX年00月 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇学専攻(修士課程)修了 修士(〇〇)</p> <p>(3) 博士課程の修了等については、次の例を参照のこと。 ① 修了時に学位を得た場合……………(博士課程)修了 博士(〇〇) ② 修了時に学位を得ず、所定の単位を取得した場合……………(博士課程)単位取得満期退学 ③ 修了時に学位を得ず、所定の単位を満たさなかった場合……………(博士課程)退学</p> <p>(4) 博士課程を退学後又は博士課程を経ずに学位を取得した場合は、次のように記入。 〔例〕 19XX年00月 〇〇博士(〇〇大学〇〇第000号) 20XX年00月 博士(〇〇〇)(〇〇大学〇〇第000号)</p> <p>(5) 大学を卒業していない場合は、最終学歴を記入。 (6) 大学の別科及び専攻科については、「学歴」欄に記入。 (7) 学生としての外国留学の場合は、「学歴」欄に記入。 (8) 教員、医師、薬剤師、看護師等の免許状・資格についても「学歴」欄に記入(学歴を記入した 後、一行あけて、免許状・資格について記入)。なお、上記(1)と同様に免許状、証書等を確認し、 授与年月、登録番号等も付記する。また、外国の資格については、原語で記入し、邦訳 も併記する。登録番号等が付与されない資格の場合は、取得年月を付記する。 〔例〕 19XX年00月 中学校教諭1種普通免許状(〇〇)平00中1普第000号 〔例〕 19XX年00月 食品衛生管理者</p>			

〈帝塚山学院大学 履歴書・教育研究業績書記入要領〉

職 歴			
年 月	事 項		
年 月	<p>(1) 職歴のすべて(自営業、主婦、無職等を含む。)について記入し、職名、地位等についても記入。なお、その職歴の始期と終期を明確に記入し、現職については必ず「(現在に至る)」と明記。</p> <p>(2) 専任の勤務先を有し、同時に他の勤務先を兼ねているときは、その勤務先も記入する。</p> <p>(3) 大学の教員の職歴については、主な担当科目を()で付記する。ただし、現在担当している科目については、「現在の職務の状況」欄に記入する。</p> <p>(4) 上記(1)(2)のほか、過去に文部科学省の教員組織審査において教員の資格があると認められた者は、その審査に係る審査年月、大学名(または研究科名)、職名、担当授業科目名(大学院にあつては判定結果を含む。)を記入。</p> <p>(5) 研究生、副手、聴講生等は、「職歴」欄に記入。</p> <p>(6) 研究者としての外国留学の場合は、「職歴」欄に記入。</p> <p>[例] 1982年4月 ○○大学○○学部○○学科助手(1983年3月まで) 1983年4月 ○○大学○○学部○○学科講師(○○学担当)(1991年3月まで) 1991年4月 ○○大学○○学部○○学科助教授(○学、○学担当)(2003年3月まで) 1994年4月 文部省内地研究員として○○大学○○学部へ出張(1995年3月まで) 1999年4月 文部省長期在外研究員として○○国(○○大学)へ出張(2002年3月まで) 2003年4月 ○○大学○○学部○○学科教授(○○学、○○学担当)現在に至る 2004年4月 大学設置審議会の教員組織審査において○○大学大学院○○学研究科(修士課程)教授(○○学特論)のM合の資格ありと判定</p>		
学会及び社会における活動等			
年 月	事 項		
年 月	<p>(1) 本人の専攻、研究分野等に関連する所属学会名(正式名称)、会員、役員の別、期間がある場合はその期間を記入。現在も所属している場合は「(現在に至る)」と記入。</p> <p>(2) 次のような事項も記入。 教育研究上の業績を有する場合はその内容を具体的に記入。 - 学会における調査、探検、委員会活動等。 - 全国的研究機関、官庁などの委嘱による調査や委員活動、科学研究費等助成金の配分を受けたこと等。 - その他の全国または県単位の組織の役員及び委員活動等。</p> <p>(3) 特記事項がない場合は、「特になし」と記入。</p>		
賞 罰			
年 月	事 項		
年 月	<p>(1) 勲章、褒章等の受章、研究成果による学会・協会等での受賞などについて記入。</p> <p>(2) 特記事項がない場合は、「特になし」と記入。</p>		
現在の職務の状況			
勤務先	職 名	学部等または所属部局の名称	勤務状況
○○大学	教授	○○学部○○学科	「○○概論」、「○○演習」
△△大学	兼任	教養科目(全学共通)	「△△論」週1コマ (兼任の場合は週あたりの勤務日数を記入。)
上記のとおり相違ありません。			
年 月 日		氏 名	

〈帝塚山学院大学 履歴書・教育研究業績書記入要領〉

「現在の職務の状況」

・記入日現在における勤務の状況（学部、短大、他大学を含めて）について記入する。

- (1) 「現在の職務の状況」の欄には、今年度における職務の状況について記入。
- (2) 「職名」については、大学等の教員の場合は、「教授」「准教授」等の職位を記入。それ以外の職に従事している場合は、「取締役」「理事」等の職名を記入。職名が無い場合は「－」を記入。
- (3) 勤務状況については、大学等の教員の場合は、担当授業科目を記入。それ以外の職に従事している場合は、職務の内容を簡潔に記入。
- (4) 常勤、非常勤を問わず、定期的に従事する職についてはすべて記入。
- (5) 他大学等の兼任教員の場合は、「勤務先」に大学名、「職名」に兼任、「学部等又は所属部局の名称」に学部学科名（全学共通の場合などは適宜わかるような表記）、「勤務状況」は週あたりの勤務日数を記入。
- (6) 大学以外の業務の場合は、従事する職に応じて実態がわかるように適宜記入する。
- (7) 「名誉職」のような場合で、定期的な勤務のない場合は記入不要。
- (8) (7) の場合を除き、勤務実態のある業務については記入漏れの無いように全て記入。

(様式2)

<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 教 育 研 究 業 績 書 年 月 日 </div>				
氏 名				
著書、学術論文等の 名称	単著、 共著の別	発行又は発表の 年月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. ○○○○○○	単 著	20XX 年○月	○○○堂	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○。(200字程度)
2. ○○○○○○○○ ○○	共 著	20XX 年○月	○○○○出版	(全体概要) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○。(200字程度) (担当部分概要) ○頁～○頁 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 共著者：○○○○、○○○、○○○
(学術論文) 1. ○○○○○○○○ ○○○○○○○○	単 著	20XX 年○月	○○○学会誌	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○。 第○巻、第○号、○頁～○頁
2. ○○○○○○○○ ○○○○○○○○ ○○	共 著	20XX 年○月	○○研究(○○研究セ ンター)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (共同研究につき、本人担当部分抽 出不可能) 第○号、○頁～○頁 共著者：○○○○、○○○○、○○○
(その他) (口頭発表) 1. ○○○○○○○○ ○○○○○○○○	単 著	20XX 年○月	○○○○学会第○回大 会	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○頁～○頁

〈帝塚山学院大学 履歴書・教育研究業績書記入要領〉

「教育研究業績書」

- ・業績多数の場合、10年以上前ものは省略可とする。

(著書、学術論文等の名称)

- ・〈著書〉、〈学術論文〉及び〈その他〉の順に区分し、それぞれ年月順（過去→現在）に並べ、区分毎に番号を付して名称を記入する。ただし、音楽関係の場合は〈著書〉、〈学術論文〉、〈演奏〉、〈作曲〉、〈指揮〉、〈CD等製作〉及び〈その他〉の順に、美術の場合には〈著書〉、〈学術論文〉、〈出品（個展等も含む）〉及び〈その他〉に区分して記入する。

〈著書〉：専門書及び大学等の教科書として刊行されたもの、辞典、訳書、編著等を対象とする。

〈学術論文〉：学会誌、専門誌または大学ないしこれに準ずる機関の研究報告に掲載されたものを対象とする。
学位論文については、論文題名の後にその旨（修士論文、博士論文等）記入。

〈その他〉：放送または講演、研究発表など口頭による発表、書評等、著書・学術論文以外の業績等を対象とする。

(単著、共著の別)

〈著書〉：一冊の本を複数人で執筆した場合、当該部分は単著であっても共著となる。

〈学術論文〉：紀要等に発表した論文は、その論文自体が共同研究にもとづくものは共著となり、単独で研究したものに関わる場合は単著となる。

〈その他〉：上記の学術論文に準じる。

(発行又は発表の年月)

〈著書〉：発刊予定のものについては、その旨を明記し、証明書等を添付。

〈学術論文〉：著書に準じる。なお、投稿予定のものは含めない。

〈その他〉：口頭発表の予定については記入不可。

〈作曲〉：出版の日付と発行所及び初演の日付と会場を記載（再演は不要）。

(発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称)

〈著書〉：発行所等を記入。

〈学術論文〉：掲載誌名及び編集機関名または発行機関名を記入。

〈作曲〉：業績については初演の会場（再演は不要）。

(概要)

〈著書〉：明確かつ簡潔（200字程度）に記入。

共著の場合“著書全体の概要”及び著書の中での“担当部分概要”と“担当頁”を明記し、本人の氏名（本人の氏名には下線をひく）を含め著作者全員（著者数が非常に多い場合は例外的に主要な著者名他〇名と記入しても可）、の氏名を当該著書に記載された順に記入。本人の担当部分を抽出するのが困難な場合は、その理由を明記（例：共同研究につき本人担当部分抽出不可能）

〈学術論文〉：〈著書〉に準じる。巻、号、頁を記入。

〈その他〉：〈著書〉に準じる。

(様式3)

年 月 日

氏名

「職務の内容」(形式は自由です。職務内容に応じて項目別に記入してください。)

- 特許等
本人の担当する教育内容等に関連した事項について記入する。
- 実務家教員についての特記事項
実務家教員について、「職歴」の欄に記入した事項を中心に、担当する科目の教育内容に関係する事項を、下記の事項等を参考に記入する。
 - ① 従事した組織、期間
 - ② 職務内容(どのような職務に就いて、どのような役割を果たしたか)
 - ③ 成果、結果
- 企業、官公庁等の研究者の場合
 - ・ 開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要
 - ・ 取得した特許等の概要
 - ・ 大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割
- その他、企業・団体等関係者
 - ・ 国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績
- 情報技術者関係の場合
 - ・ コンピュータに係る職務歴(職務上のコンピュータ活用法、ソフト・システム開発歴)
- マスコミ関係者の場合
 - ・ 執筆した記事の概要
 - ・ 制作した番組の概要
- 医師や看護師等医療技術者の場合
 - ・ 症例研究会での発表等の活動
- 福祉その他社会活動の関係者の場合
 - ・ 参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位
- スポーツ等実技関係者の場合
 - ・ 指導者としての経歴・実績・資格
- 芸術関係者の場合
 - ・ 作品の概要
- 博物館、美術館等関係者の場合
 - ・ 担当した展覧会の概要
 - ・ 執筆・監修した展覧会図録の概要
- その他全般を通じて
 - ・ 大学から受け入れた実習生に対する指導歴(看護・福祉実習、企業実習等)
 - ・ 企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要
- その他
上記以外の事項について幅広く記入する。